

サビエル生誕五百年

巡礼の道

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

24



サビエルの骨

サビエル列聖の証拠とするため、遺体が安

置されているインドのゴアで右腕が切断さ

れ、ローマに送られたことは先に書いた。

さらにそれから五年後、迫害が続く日本の信徒を励ますために右



聖ヨゼフ修道院教会のサビエルの上腕

腕の切断は 一六一四年

上腕があった

聖ヨゼフ修道院教会



には聖堂が火事になり、石造りのファサードだけを残して全焼したが、幸いにも上腕などは無事であった。

そして

マカオに出発する前に手にしたガイドブックには今も上腕はそこにあることになっていたが、実際にはなかった。ガイドにいろいろ調べてもらおうと、今はイエズス会の聖ヨゼフ修道院教会に安置されているが、改装工事のため一般公開はされていなかった。

何といってもサビエルの骨である。一五五四年、ゴアで三日間だけ拝観が許された時、一人の貴婦人が遺体の足に接吻すると同時に、足の薬指と小指をかみ切って立ち去った。

そして、彼女が死んで一つの指は聖堂に返され、今はサビエル城に、もう一つの指はいろいろの貴族を経て今はリスボンにあるという。

なお山口のサビエル記念聖堂にも小さな指の分骨が聖堂内に展示

してある。

今回、サビエルについていろいろ教えて下さった二十六聖人記念館の結城神父はスペイン人で、帰化されて今八十四歳。

昭和二十三年に来日した時、生涯を日本で過ごし、日本で死ぬと決め、日本人としての義務を果たすため帰化されたという。

サビエルと同じイエズス会員であり、自分の名譽や欲望を捨てて日本にキリストの福音を伝えることに生きてきた神父、長い歴史の中

で権力争い、人間の醜さ、弱さがある中で、今も教会が存在し、神の現存を実感できるのも、このような神父によるところが大きい。神父はサビエルが亡くなった上川島に巡礼した際、特別にマカオの上腕を借りて行き、ミサをたてたことを大変うれしそうに話された。骨身を削られたサビエルも、天の国でそんなに喜ばれるならと納得されているだろう。(元山口放送取締役ラジオ局長)



上腕はなかった

聖フランシスコ・サビエル教会